

東北大学災害科学国際研究所 IRIDeS 金曜フォーラム  
2020 年度共同研究成果報告会  
兼 災害レジリエンスを考えるパネルディスカッション

災害科学国際研究所は発足以降、災害科学関連の研究領域において多様な共同研究を実施し、実践的防災学の発展につながる数多くの実績を挙げてきました。同時に、本邦の学際的な災害科学研究を推進する中核拠点となり得る施設、研究機器、情報構築、人的体制、ネットワークを整備して参りました。全国関連領域の研究者に本研究所のリソースを活用した共同研究の促進を目的とした助成を行っています。今年は、昨年度に実施された共同研究の成果、プロジェクトエリア・ユニットの活動報告に加え、下記特別企画がございます。

**特別企画： 災害レジリエンスを考えるパネルディスカッション**

東日本大震災などの巨大災害、異常気象による災害、パンデミック災害などのように被害が連鎖・複雑化する災害は、防災と社会の強靱性（レジリエンス）のあり方に課題をつきつけています。社会の災害レジリエンスを向上させるために、災害科学国際研究所と防災科学技術研究所がどのような共同研究、連携・協力をを行い、さらに国内外の研究者との連携、共同利用・共同研究につなげていくかについて、これまで災害科学国際研究所と連携してきていただいている関係各位とともに考える機会として、パネルディスカッションを開催いたします。

1. 日時

2021 年 7 月 17 日（土） 9:00～17:30

2. 会場（オンライン）

Web 会議場 [Zoom]

ホール A：

参加 URL は、お申し込み頂いた方に後日お知らせいたします。

ホール B：

参加 URL は、お申し込み頂いた方に後日お知らせいたします。

3. プログラム

8:30	開場
9:00— 9:10	開会の挨拶（所長：今村 文彦，ホール A）
9:10—12:20	[共同研究]口頭発表（午前の部 18 件）
12:20—13:20	昼休憩
13:20—16:10	[共同研究]口頭発表（午後の部 16 件）
16:20—16:25	閉会の挨拶（副所長：丸谷 浩明，ホール A）
16:25—16:30	休憩
16:30—17:30	災害レジリエンスを考えるパネルディスカッション（ホール A）

# 災害レジリエンス学際研究の拠点形成や連携・協力のあり方を考える パネルディスカッション

## 【ホール A】

【開催趣旨】東日本大震災などの巨大災害，異常気象による災害，パンデミック災害などのように被害が連鎖・複雑化する災害は，防災と社会の強靱性（レジリエンス）のあり方に課題をつきつけている。災害科学国際研究所（以下，災害研）は令和3年度から災害被害評価・低減研究部門，災害医学研究部門，災害人文社会研究部門，防災実践推進部門の4部門体制となり，より分野融合型，学際型の研究を推進し，社会に実装することをめざしている。また，防災科学技術研究所（以下，防災科研）は「生きる，を支える科学技術 SCIENCE FOR RESILIENCE」を研究所のアイデンティティとして掲げ，あらゆる種類の自然災害（マルチハザード）を対象に，予測・予防・対応・回復のすべての段階（オールフェーズ）について総合的な研究開発を進める文部科学省所管の国立研究開発法人である。本パネルディスカッションは，社会の災害レジリエンスを向上させるために，この2組織がどのような共同研究，連携・協力をを行い，さらに国内外の研究者との連携，共同利用・共同研究につなげていくかについて，これまで災害科学国際研究所と連携してきていただいている関係各位とともに考える機会とする。

司会者：丸谷浩明（災害研・副所長）

[1] 16:30-16:35 挨拶と趣旨説明

今村文彦（災害科学国際研究所・所長）

[2] 16:35-16:45 防災情報基盤に関する共同利用・共同研究の意義

臼田裕一郎（防災科学技術研究所・防災情報研究部門長）

[3] 16:45-16:55 リアルタイム災害科学の創成

越村俊一（災害科学国際研究所・災害ジオインフォマティクス研究分野）

[4] 16:55-17:05 防災における社会的期待発見研究

永松伸吾（防災科学技術研究所・災害過程研究部門長）

[5] 17:05-17:15 災害医学に垣根はあるか

江川新一（災害科学国際研究所・災害医療国際協力学）

[6] 17:15-17:30 総合討論

今村文彦，臼田裕一郎，越村俊一，永松伸吾，江川新一